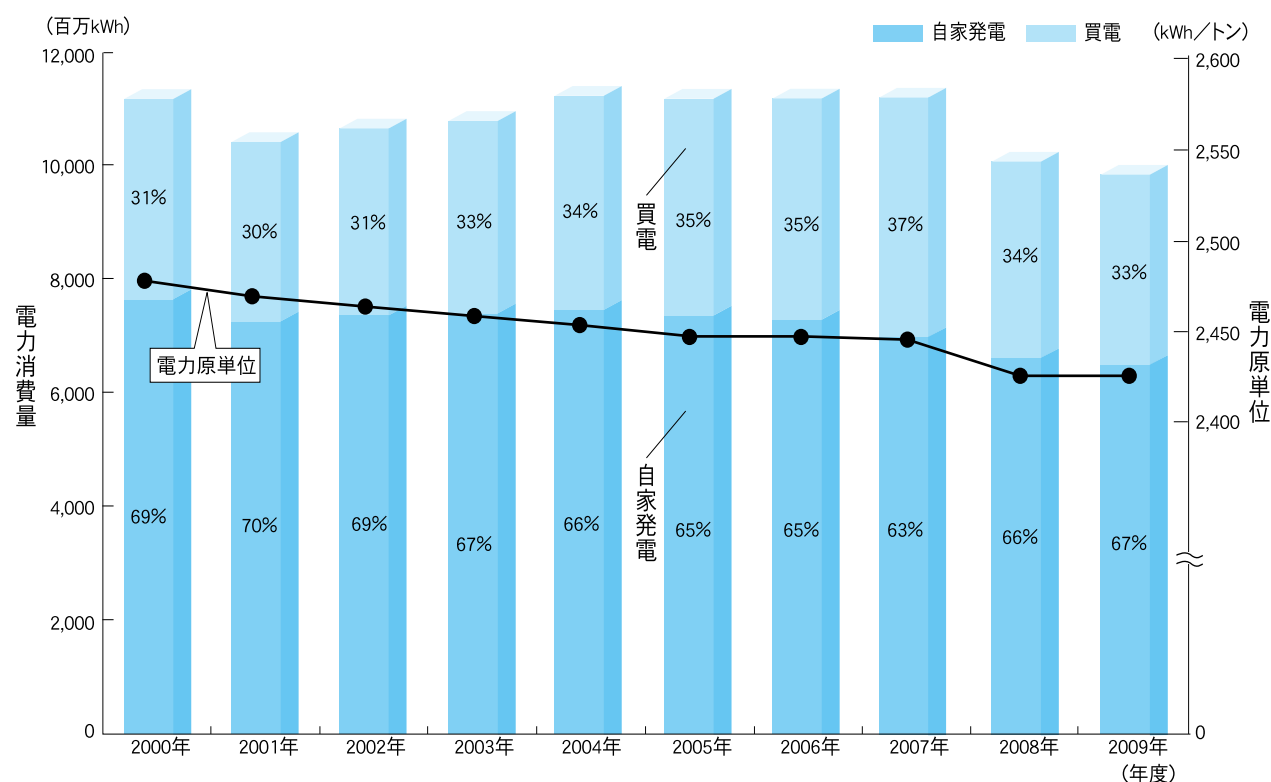


電解ソーダ工業の電力消費量、買電・自家発電比率、電力原単位の推移



(単位：百万 kWh)

年度	電力消費量			電力原単位 kWh / t
	買電 (構成比)	自家発電 (構成比)	計	
2000年	3,361 (31%)	7,621 (69%)	10,982	2,479
2001年	3,090 (30%)	7,287 (70%)	10,377	2,462
2002年	3,309 (31%)	7,389 (69%)	10,698	2,460
2003年	3,498 (33%)	7,265 (67%)	10,763	2,458
2004年	3,825 (34%)	7,306 (66%)	11,131	2,452
2005年	3,815 (35%)	7,212 (65%)	11,027	2,444
2006年	3,864 (35%)	7,082 (65%)	10,946	2,449
2007年	4,069 (37%)	6,912 (63%)	10,981	2,447
2008年	3,406 (34%)	6,630 (66%)	10,036	2,426
2009年	3,281 (33%)	6,547 (67%)	9,828	2,433

注) 買電は、電力会社等から購入する電力のこと。電力原単位は、カセイソーダを1トン生産するのに必要な電力消費量を表す。

電解ソーダ工業において、電気（電力）は生産コストの約4割を占め、他のものに置き換えることのできない、必須の原料となります。

わが国の電解ソーダ工業は、2000年以降、すべての製造設備が、世界一の省エネルギー効率を誇る、イオン交換膜法になっています。カセイソーダを製造するのに必要な電力量は、カセイソーダ1トン当たり、欧米を含めた諸外国に比べて、1割以上も低くなっています。

わが国の電解ソーダ工業は、この10年間で、電力原単位が2%も向上しています。わずか2%ですが、成熟産業と言われる電解ソーダ工業にあって、さらにイオン

交換膜法100%導入のわが国にとっては重要なことで、いかに省エネルギー技術の開発、促進に向けて、努力し続けているかの証拠でもあります。

2009年度の電解ソーダ工業の電力消費量は、前年度比2%の減少となりました。内訳は、買電が4%減、自家発電が1%減と、買電の方が減少幅が大きくなりました。従って、構成比も、自家発電シフトが若干高まりました。

わが国電解ソーダ工業は、電力削減の新技术である「ガス拡散電極」の実用化を含めて、地球温暖化対策として、更なる省エネルギーの技術開発等に取り組んでいます。